

# ドル/円相場のトレード戦略

## 【ドル/円 週足】



### ■中期展望

2019年の展望を考えるに当たり、昨年2018年を振り返ってみると、当初想定していたように2017年と同様のレンジ相場が継続してしまいました。

年間の値幅は10円を下回り過去最少、2017～2018年の2年間を通して値幅は14円に満たず過去最少となり、市場のボラティリティから収益を得ようとするディーラーにとっては極めて厳しい環境となりました。

その大きな要因としては、絶好調だった米国の経済状況にもかかわらず、年初に米国の政策への不透明感からドルが下落したこと、そして年末には米金利のフラットカーブ化やそれに伴う米国株式の大幅下落、米中貿易摩擦の激化などのリスク要因が相次いだことでドルの上値が抑えられたことが挙げられるでしょう。

米国経済が強調であり利上げ予測が続くためにドルロング・ポジションが蓄積される中でもドルが大きく上昇しないという現象は、ドル高派にとって想定しにくい状況であったと思われます。

そのため、年明けの1月3日に108円を割り込むと損切りのドル売りを巻き込みながら、ドルが短期間に4円以上の下落という動きが引き起こされました。

107円半ば以下では、公的年金のドル買いのうわさもあり、現在ではややドルが持ち直していますが、依然不透明な状況が続いています。

## ドル/円相場のトレード戦略

今後の相場は、米経済の成長が鈍化するのか、それに伴って米国の利上げが打ち止めとなるのかが注目されることになるでしょうが、1月の米FOMCでは声明文から追加利上げのバイアスが削除されたことにより政策スタンスが大きく変わった可能性が指摘されており、当面の上値は限られたものとなりそうです。

ただし、2月の米雇用統計は好調を維持しており、目先は明確なファンダメンタルズの変化が起きることも期待しにくいことや米国の貿易交渉の行方が不透明なこともあり神経質な動きが予想されます。

1月3日のドル急落でポジション調整も進んだものとみられることから一段の大幅ドル安には向かわない可能性が強いものと考え、当面は105円～110円程度をコアレンジとする動きが続きそうです。

### ■短期展望

先週は、週初109円後半でスタートした後、ドルが堅調な足取りを続け、今月4日の高値110円16銭をしっかりと上抜けすると111円13銭の週間高値まで続伸しました。

しかし、週後半に発表された米12月分小売売上高が市場予想に反し、前月比1.2%減と9年3ヶ月ぶりの低調な結果となったことでドルの利食いが強まり110円前半まで軟化して、110円半ばで週を越えています。

今週は、20日に公表される1月開催分のFOMC議事要旨が注目されます。ハト派に寄った決定内容ではあったものの、その後の雇用統計などを受けて市場では利上げ期待が若干持ち直してきており、議論の内容によってはドルの買い戻しもありそうです。

また、3月1日の交渉期限を控えた米中貿易交渉の行方は最大の焦点であり、結果によっては相場乱高下につながる可能性があり要注意といえるでしょう。

これらの材料による波乱がなければ、今週も先週同様110円台中心の動きの継続が予想されます。